

## 第58回宇宙政策委員会 議事録

1. 日時：平成29年3月31日（金） 13:00－14:20

2. 場所：内閣府宇宙開発戦略推進事務局大会議室

3. 出席者

(1) 委員

葛西委員長、松井委員長代理、遠藤委員、松本委員、山川委員、山崎委員

(2) 政府側

宇宙開発戦略推進事務局 高田事務局長、佐伯審議官、佐藤参事官、高見参事官、松井参事官、守山参事官、行松参事官

4. 議事次第

(1) 各部会・小委での検討状況について

①宇宙産業振興小委員会の検討状況について

②国際有人宇宙探査に係る検討について

(2) 宇宙活動法技術基準小委員会の設置について

(3) 宇宙基本計画の工程表改訂に向けて

(4) その他

5. 議事：

(1) 各部会・小委員会の検討状況について

①宇宙産業振興小委員会における検討状況について

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。その後、議論が行われ、委員からは以下の様な意見があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○宇宙システムの海外展開を長期的にプロジェクトとして進める上で、官庁の担当者が短期で代わる状況が課題であり、人を継続的に雇う仕組みの一案としてプロジェクトマネージャとあるが、これは具体的に議論されたのか。（松本委員）

●産業小委では、外務大臣の科学技術担当の補佐官のような形で、いわば政府の中で何らかの位置付けを与えて、外部の方を活用したような例もあるので、そういう形の利用の仕方もあるとの提起もあった。（高見参事官）

○ハイレベルではそういう形も必要だろうが、具体的に、その人の配下なのか、あるいはそれが設けられない場合には、長期の政策に関わるプロジェクトマネージャを雇

用するシステムを、この委員会が提起しないとできないのではないか。（松本委員）

●2つの可能性を考えており、内閣府の技術参与制度と、調査委託事業で継続的にできないかということ。むしろ、リアルな人をどう継続的に確保できるかが課題。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

○産業界からも人は出して貰えるかもしれないが、基本的に長期に渡ることを考えると、大学にそのような人材が多い気がする。そういう人に肩書きを与えて活動しやすいようにするということが重要ではないか。（松本委員）

●この分野では大学の先生方の貢献が著しいので、そのようことを考えていきたい。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

○資料10ページの宇宙システム海外展開では、他の分野との連携が非常に大切だ。エネルギーとか、鉱物資源を含めて、他の分野で宇宙の資源を使えるのではないかという話が出てくる可能性がある。他の分野との連携も是非強めて頂きたい。取り組みに関しては、現在はこの経協インフラ会議が主な枠組みか。（山崎委員）

●経協インフラ会議が柱である。海外システムのタスクフォースは宇宙では非常にきめ細かくやっている。経済協力は、内閣官房の組織でがっちりやっている形になっており、宇宙も紹介して、横連携を取り合っている。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

## ②我が国としての有人宇宙探査に対する考え方について

宇宙開発戦略推進事務局より、宇宙科学・探査小委員会及び宇宙産業・科学技術基盤部会にて取り纏めた内容について説明を行った。その後、議論が行われ、委員から以下の様な意見があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○このISEFのEは、Explorationということなので、ISEFは必ずしも有人ではないと思うが、有人は一部ということか。Explorationを訳せば探査も一つの候補であるが、もう少し幅広い活動を議論するのではないか。（松本委員）

●工程表で、国際有人宇宙探査のあり方について、ISEF2までに検討すべきということになっているので、まずはそれにフォーカスしているが、この宇宙探査の小委員会でも幅広く、無人も含めて、あるいは学術としての探査のあり方、そういうことも含めて、議論して頂いた。人材確保とか、宇宙資源探査とか、そういうところもきちんと視野を広げ、目配りしないといけないというまとめになっている。（行松参事官）

○基本的には、宇宙探査というと、イメージとしては火星に行くとか、木星に行くとかそういう探査ばかりが頭に出るが、それも将来はターゲットになるかもしれないが、現実の有人活動というのはもう少し低軌道でやっている。それをどういうふうに展開していったらいいかという議論になるため、読み方を探査活動と読めば理解できる。あるいは、宇宙開発と読めば。（松本委員）

○2. の資金の在り方が検討事項になっているが、いずれにしろ資金あるいは経費を具体的に考えることが非常に重要だ。（山川委員）

○資料の最後の段落で、別途検討するというただし書きがあるが、例えば具体的な国際宇宙探査について、目標や資金のあり方を検討する際に、その中で政策的価値の最大化を特に目指すということに当たっては、これらの観点も取り入れながら検討しないといけない。報告書をまとめる時に、この場ではこれを全てまとめる必要はないが、上記の点も考慮しながらという意味だと思うので、それも含めて全体の最大化を図って頂きたい。（山崎委員）

●前回大きなフォーカスがあったのは、有人の宇宙探査の部分がかなりISEFでの議論であったが、その際にもやはり低軌道の基盤としての使い方等も含めて出て来ると思うので、その点は文科省の検討でもよく踏まえて頂きたいと思っている。（佐伯審議官）

○他に何か御意見が無ければ、この原案でよろしいですか（葛西委員長）

（一同同意）

○それでは、この原案を了承し、政府にはこの内容を踏まえた検討を行って頂くようお願いする。（葛西委員長）

## （2）宇宙活動法技術基準小委員会の設置について

宇宙開発戦略推進事務局より、宇宙活動法技術基準小委員会を設置した件について紹介を行った。

○今後、設置された小委員会で宇宙活動法の詳細の検討を行って頂き、適宜報告を受けることにする。（葛西委員長）

## （3）宇宙基本計画の工程表改訂に向けて

宇宙開発戦略推進事務局より説明を行った。その後、議論が行われ、委員から以下のような意見があった。（以下、○意見・質問等、●回答）

○先の議論での国際関係で人材を長期的に確保して行こうということは、この文章だけで読めるか。どこかに1行文言を入れると強くなるのではないか。（松本委員）

●本日の資料は、今年やるべきことが書かれているので、それはまだ入っていない。年末の工程表で、来年度以降何をするのだという審議をして頂いて、今のような論点を加えていくことになる。（高見参事官）

○「準天頂衛星システムの4機体制構築とその利活用促進」に関して、2010年に「みちびき」の初号機が上がったことでフェージビリティが上がり、それが4機体制に繋がった。次年度の打ち上げで、準天頂衛星の存在感が非常に高まり、利活用が周知徹底され、新たなアイデアがどんどん出てくるはず。この好機をとらえて行くべきという前向きなメッセージを是非入れて頂きたい。それが、東京オリンピックというものに繋がってくる。「H3ロケットの着実な開発」が、恐らく予算的な意味で一番考慮すべきところであり、そういった意思が見えるような表現に是非して頂きたい。（山川委員）

●頂いたような意見で、当然文科省ともシェアして、夏の段階ではそういうのを踏まえた検討をして、秋の予算要求でできるだけのことをやって行きたい。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

○宇宙のデブリの件は重要だろうと思うが、具体的にそういうことをやる機関は、JAXAを念頭に置いているのか。研究開発、技術提案をどこに期待しているのか。（松本委員）

●デブリに関しては、JAXAにおいても研究開発が行われているが、他の研究が海外でも行われており、そういった動向を把握した上で、今後どう議論を進めて行くのかを検討する考え。（松井参事官）

○まだ検討とか調査の段階ですか。（松本委員）

●昨年官邸で開かれた会議の一つの中で、スペースデブリが話題になった、そちらで理研の戒崎博士の、レーザーをデブリに当てて、それが地上に落ちるという理論的な研究について紹介された。関係する部署はそういう技術もあるのだなということ把握したり、JAXAがやっているのがあったりとか、民間でもアストロスケール社がスペースデブリをキャッチするような事業の構想をアナウンスしたりとか、いろいろなところで、この分野の関心が高まりつつある。まずは、そういう技術研究について、誰がどのようなことをやっているのかというのを把握しなければいけない。もう一方で、

戎崎博士の時に感じたのは、年間1億円程度ぐらいとのことでしたが、宇宙関係の純粋な研究となると案外予算がないので、他の研究機関、経産省の産業技術総合研究所とか、ファンディングのNEDOとかJSTとかで、こういう基礎的な分野は、いろいろコーディネートできる可能性があるのではないかと考えている。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

○理研の内部の研究の話も一部あったが、自分たちの研究費の中でやるのは全然問題がないが、少しずつ大きくなっていくと、やはり国として全体の有効な予算の使い方、要求の仕方を考えて頂く必要がある。理研の一研究者の研究費の中でやっている分は研究が進むが、そこから先になると、例えば、政治的にこれは重要だから要求しろと言われても、なかなか難しい面がある。国の枠組みを決めて、その中で、どこがどういう要求をして行くかということをおある程度モニターして頂けると研究が進むと思う。（松本委員）

○【工程表29】の衛星データの利活用で、産業振興小委の方でもAWSの話など、ソフトウェアのプラットフォームに加え、民間資金の話もよく出ており、工程表にあるように、民間資金とか、各種の支援策の活用の方も、あわせて議論ができると、産業小委に近い形になると思う。（遠藤委員）

○【工程表29】で、衛星データの利活用の検討を行い、その実施を図るということだが、29年度はどこまで検討し、具体的に整備をどの程度まで考えているのか。産業ビジョンが春に出され、宇宙2法によってどんどん新しい産業を取り込もうとして行く中で、できるだけ歩調を合わせ、よいタイミングで衛星データについても審議されることも大事だ。（山崎委員）

●実証事業については、既存の調査費をこれにできるだけ振り向け、まずはできるところから始めたい。あわせて、関係する官庁に、来年度予算で大きなものを作れないかというお願いもして、切れ目がないように、常に続けて行けるように努力したい。関係省庁と連携をとっていく。（高田宇宙開発戦略推進事務局長）

○他に御意見は無いため、本日のいろいろな意見も踏まえ、来月以降の各部会で詳しい検討を行って頂くことにしたい。（葛西委員長）

以上